

幼児期後半の健診の意義に関する心理学的研究

研究担当者 川 井 尚¹⁾
倉 橋 俊 至²⁾, 萩 谷 克 子²⁾

要約

全国の4歳ないし6歳の幼児2970名を対象にアンケート調査を実施した結果から、5歳児の時期に健診を実施することが妥当であると考えられた。その理由は次のごとくであった。

① 調査項目によって示される、社会性、友達関係、生活習慣、および精神発達に関する項目に4歳と5・6歳の間に有意差が認められた。これらの領域は、幼児期に達成されることが望ましく、この点から5歳ないし6歳児健診が妥当であると考ええる。

② 5歳児において、微症状や非社会的行動などの問題と活動性、自発性、社会性、生活習慣や精神発達、母子・父子関係、父母の心身状況と、最も広範囲な関連を有し、この時期の健診の効果が期待できる。

③ 5歳児において、父親・母親の心身状態と②にのべた多くの調査項目が最も関連を有している。この時期は父親の影響を受けやすいだけでなく、母親と子どもの心身の状態が一番同調している。従って、5歳児では乳幼児期のある関係の発達の頂点なしていると考えられ、この時期に健診を実施すれば母と子の双方の保健指導や心の相談の効果が期待され、また、母子関係の発達を援助するためのよい時期であると考ええる。

④ 父親・母親の心身状態が互いに関連を有し、さらにそれが特に5歳児の広範な心身状態と関連を有している。従って、父・母・子の三者を視点に入れた家庭保健的立場の健診が5歳児の時期に行なわれることが望まれる。

本研究は心理社会的、発達の側面に関するものであるが、5歳児前後はいろいろの立場で健診の必要性が考えられる。こうした多目的な健診を指向し、実施につなげていく発想が必要である。

見出し語：乳幼児健康審査、5歳児健診、親子（父母）関係、発達、社会性

1) 東京都精神医学総合研究所

2) 東京都母子保健サービスセンター

研究の目的

乳児から3歳までの乳幼児健診は、本研究班の研究目的にあるように、その充実と改善をかさね、なお今日の新たな環境に適切に応じられるよう検討されてきている。ここにも母子保健関係者の一層の努力が求められているのであるが、一方、乳幼児健診は3歳までの実施で十分その役割を果たし得ているであろうか。特に、子どもの置かれている現在の家族・社会的環境が、心の問題の発生に関与し、児童期から思春期に登校拒否、無気力、摂食障害、そして様々な心身症状の発現と深く関わっていることは確かである。したがって、小児の心の発達や心の傷(mental trauma)の問題に深い関わりを持つ幼児期において、3歳以降就学までの間に健診の機会を設け、心の問題の発生子予防につながる母子保健サービスを行なうことに意義や必要性があるかどうかを検討することは、重要な課題であると考え。そこで、本小班(乳幼児健診の体系化に関する研究)においては、そのための基礎資料を収集して検討の手掛かりとしたいと考え、調査研究を行なった。ここでは幼児期後半(4歳、5歳、6歳)における健診の意義を考える上で重要な意味を持つ心理学的な研究成績について報告する。

研究の方法

(1) 調査票の作成(表2および付表参照)

調査票は、微症状、習癖、非社会的行動、活発さや意欲・好奇心等の活動性、自発性、社会性(友達との関係)集団行動、生活習慣、情緒の統制、母子・父子関係、父親の家事・育児へ

の参加、父親・母親の心身状態、そして精神発達項目といった広範な領域を含むよう検討し、32項目からなる表を作成して使用した。

(2) 調査対象及び方法

調査地域及び対象数は表1に示した。対象者は、4歳 505名(男254、女251)、5歳 1684名(男851、女833)、6歳 802名(男388、女414)の計2991名である。

調査方法は各班員を通して地元の保育所(1004名)・幼稚園(1970名)に依頼し、母親が記入の上、回収した。

回収した調査表は一括して集計し、分析・検討した。データの整理は①単純集計、②調査項目の年令差(4・5・6歳)(χ^2 検定)、③母親・父親の心身状態と調査項目との関連(χ^2 検定)に分けて行なった。ここでは得られた結果について、

- (a) 3歳以降の健診の必要性があるかどうか、
- (b) あるとすればいつの時期がよいか
- (c) 中心となる健診目的は何か、の3点に関する資料を提出した。

研究の成績

(1) 3歳以降の健診の必要性について

微症状、習癖、非社会的行動等は、心身の健康に関するシグナルであると考えられ、この観点から健診の必要性を検討する手掛かりを得たいと考える。表2は各年令毎の単純集計を、表3はその度数分布を示したものである。

a) 微症状

微症状を1つも示さないものは55.9%、1つ

示すもの28.1%、計84.1%であり、以下比率が下がる。

<ぜいぜいしやすい> 4歳11.1%、5歳10.5%、6歳9.8%、
<湿疹が出やすい> 4歳17.6%、5歳15.7%、6歳12.4%、とアレルギーに関する比率が高い。この症状と心理的なものとの関連が問題となろう。

<顔色が悪い>は、低率であるが、情緒的交流の乏しい場合による仮性貧血も考えねばならない。

<吐きやすい>も心身症的な傾向があり、これら微症状を心理的な観点からみることも必要であろう。

b) 習癖

チェックなしが64.1%、1つのチェックが29.1%で大半を占めた。多い習癖は<おねしょ> 4歳21.4%、5歳14.2%、6歳14.1%、
<指しゃぶり> 4歳17.6%、5歳13.0%、6歳10.7% であり、この2つの習癖は5・6歳にも10%強みられることに注目される。
<爪かみ>は4歳11.1%、5歳11.9%、6歳11.6%でほぼ同率を示し年齢差がみられない。

出現率の少ないものは、

<チック> 4歳0.8%、5歳1.1%、6歳1.4%、
<吃音> 4歳3.6%、5歳3.8%、6歳1.9%であり、
<抜毛>は殆どみられない。(4歳0%、5歳0.2%、6歳0.3%)

c) 摂食に関する問題

チェックなしが64.3%であり、微症状・習癖

と同率である。

<小食> 4歳19.4%、5歳17.7%、6歳18.2%、

<偏食> 4歳20.6%、5歳21.5%、6歳18.8% は出現率が高く、子ども達の食行動の中心の問題であることを示している。

<過食> 4歳1.8%、5歳2.6%、6歳3.2% は少ないがしかし年齢が上るに従って漸増傾向が認められる。思春期以降の摂食障害には現在過食が多くみられ、このつながりは興味深い。

d) 非社会的行動

7.7%がこの行動を示している。

<保育園・幼稚園にいきたがらない> 4歳が多く3.2%、5歳2.0%、6歳1.9%である。登校拒否の子には、幼児期すでにこの傾向を示しているものが多く、注目される。

<家の人とは話すが、よその人とは殆どはなさない> 4歳3.6%、5歳3.8%、6歳2.6%、
<お母さんから離れない> 4歳3.8%、5歳3.2%、6歳2.7%とほぼ同率で、同一対象者の率が高い。将来の場面緘黙やひきこもりがちな行動と関連を持つかどうか関心がもたれる。

e) 怖れ

3.9%が怖れを示している。

<極端な人見知り> 4歳1.8%、5歳1.4%、6歳1.6%、

<ひどくこわがる> 4歳3.2%、5歳2.5%、6歳2.0% を示した。母親を安全基地として使えているのかが心配で、親子のアタッチメント関係に問題があるのかもしれない。

f) 睡眠などの問題

8.8%が睡眠などの問題を示している。

<ねつきが悪い等の睡眠の問題> 4歳4.2%、5歳5.9%、6歳8.0%、
<夜驚> 4歳2.4%、5歳3.5%、6歳2.6%
を示している。

以上の出現率をみると、心身の健康さを示すと考えられる比率が比較的高いことがわかる。即ち、チェックがないものとみると、微症状56.0%、習癖64.1%、摂食の問題64.7%であり、この3領域では60数%がカットラインであろう。非社会的行動(92.3%)、怖れ(96.1%)、睡眠(91.2%)、のチェックなしの比率は高く、それだけにここにチェックされるものは援助の対象と考えられる。微症状のチェックなしの比率が他に比べて低いのは<ぜいぜいしやすい><湿疹が出やすい>の2項目が、習癖は<おねしょ><指しゃぶり>の出現率が高いためである。健診の大きな目的は健康の増進であり、健康を示す比率を全体的に上げていくことが重要であろう。

一方、極端な人見知り、ひどくこわがる、幼稚園・保育園に行きたがらない、家の人とは話すがよその人とは殆どはなさない、お母さんから離れられない等は、心の相談で取り上げられる問題であり、これらの項目に該当するものは、心身の健康が危ういことを示すシグナルになっている可能性がある。健診システムのなかでの心の相談の役割が果たすべき問題点であろう。

さらに、児童期・思春期に問題を生じる者の中には、乳幼児期にこれらの危機信号を発している者が多いとされ、幼児健診で援助ができれば予防につながるものと考えられる。この観点から3歳以降の健診実施が望まれる。

しかし、この調査研究の結果のみから3歳児以降の健診の必要性を確認することは無理であるので、健診のシュミレーションをし、追跡研究を行なう等が必要である。従って、今回は健診実施の必要性を示唆するに止めたい。

(2) 健診の時期について(付表1~5)

3歳児以降の健診の必要性を仮に認めたとすると、4歳5歳6歳のうちいずれが健診時期として妥当であろうか、この点を検討するために、①調査項目の年令差 ②年令毎の微症状、習癖、非社会的行動等と調査項目との関連から検討を加えた。

①調査項目の年令差

4歳5歳6歳の年令による差の検定(χ^2 検定)を行なったところ、以下の11の項目に有意差が認められた。その殆どは生活習慣、発達に関する項目であり、項目8のおはし、9の食卓から離れずに食べる、10うんちのしまつ、11着脱衣、12前後左右、13口形模写、14数の概念、15の5秒間片足立ち、であり有意差は4歳と5・6歳間にある。

残りの3項目は、4の意欲的かどうか(意欲的でない4歳5.5%、5歳4.8%、6歳5.0%)であり、4歳に多く有意差が認められている。項目7仲のよい友達がいらないものは4歳10.2%、5歳5.5%、6歳4.8%であり、4歳と5・6歳に有意差がある。

18のよいこと・悪いことの理解がまだわからないのは4歳2.6%、5歳1.7%、6歳0.8%であり、4歳に多い。

発達項目に関しては、年令差が出るのは当然

であるが、ここにあげた生活習慣（項目8、9、10、11）や視知覚協応（項目13）、数の概念（項目14）、運動協応（項目15）は、幼児期に達成されるという意味でこの点からいえば4歳ではなく、5歳6歳に健診を設定するほうが望ましいといえよう。また、仲のよい特定の友達との関係も社会性の発達に重要であり、これも5歳では94.5%、6歳95.2%に対して4歳では89.8%であり、これも5歳6歳でみたほうがよいであろう。

②年令毎の微症状、習癖、非社会的行動等と調査項目との関連

表3の度数分布表からアンダーラインで示したカットポイントでチェックの多いもの・少ないものにわけ、一方調査項目も例えば項目2活発さについて、大変活発・どちらかというとな活発とどちらかというとな活発でない・活発でないに2分し、 χ^2 検定を行なった。

表5は $P < .05$ 以上の有意水準のものである。(○印)

まず、全体の傾向をみると(有意項目数)、各群いずれも5歳児に有意項目数が多いことがわかる。この意味は、5歳児では最も微症状や行動的問題とこれら調査項目の示す諸特性と関連が強いことを示しているということである。5歳児の微症状との関連をみると、活発さ、好奇心、意欲、自分でやりたい、といった活動性・自発性のある子は微症状を示すことが少ない傾向にある。口形模写等の発達項目(13、14、15、18)も5歳児では関連がある。母子関係(21)、そして父親へのなつきや父親の心身の快調さといった父親の問題、また5歳

児については母親の心身状態と有意な関連を有していた。

次に、非社会的行動と調査項目との関連をみると、この行動が最も有意項目が多く示されている(4歳13項目、5歳21項目、6歳16項目)。いずれの年令も活動性、自発性(項目2、3、4、5)、欲求の遅延(20)、母親と離れても安定している(21)、情緒の統制(21、22)、そして母親の心身の快調さ、と非社会的行動の少なさとは関連を有している。例えば、活動的で自発性のある子には幼稚園・保育所にいきながらいない子は少ないということである。また5・6歳児では母親とのよい関係(23)と父親の家事・育児への参加や父親との遊び、なつき等、父親との関連が深い。この時期になると、父親が前面に出てくるのであろう。ここでも5歳児が最も有意項目が多く、上記の項目に加え生活習慣(10、11)、発達項目(12、16)、集団遊び(19)に関連をもっている。怖れも非社会的行動と同傾向を示している。次に年令ごとにみると、4歳児では、微症状、摂食の問題、睡眠の問題とは関連が少なく、習癖、非社会的行動、怖れに有意なつながりを有し、5歳児では各群いずれにも多く関連をもっている。6歳児は、微症状、習癖が少なく、4歳児よりも非社会的行動、摂食、睡眠、怖れの順に有意な関連を有している。

以上の結果から、健診の対象となる問題と広い範囲の関連を持つ5歳児が健診の実施時期として浮かび上がってくる。即ち、調査項目にある諸要因が心身の健康さと関連を多く持つところから、最も健診の効果が期待できると考えら

れる。

③父親・母親の心身の状態と調査項目の関連

親の心身の状態(表4)は、子どもにとっては健康で発達促進的な環境と考えることができる。そこで、親の心身状態を心身快調と精神的不調及び心身不調に分け、微症状以下前項目との関連を検討した(χ^2 検定)。表5は、 $P < .05$ 以上の有意項目を示したものである。

a) 父親の心身の状態との関連

5歳児有意項目数19、4歳児7、6歳児10、と5歳児に多くの関連を有している。4歳児では、習癖、友達との関係、欲求を遅延できること、母親とのよい関係、父親へのなつき、そして母親の心身の状態と関連をもっているが、5・6歳に比べ、最も有意項目が少ない。6歳児は4歳児よりも有意項目が多く、非社会的行動、怖れ、好奇心、友達関係と以下4歳児と同じ有意項目を示している。5歳児をみると、活動性、自発性、友達関係、発達と広範囲に父親の心身状態と関連をもっている。例えば、活動的で自発性があり、仲のよい友達があり、集団のなかでうまく遊べる等は父親の心身の快調さと関連があるということである。父親の影響を受けやすい時期とすれば、5歳児健診が望ましいであろう。

b) 母親の心身の状態との関連

表に示すように、5歳児では殆どの項目に有意な関連を示し、説明を要しない(4歳児9項目、5歳児30項目、6歳児15項目)。この時期は、母親と子どもとの心身の状態とがぴったりと同調しているといってよく、乳幼児期の母子関係の発達の頂点をなしているものと考え

られる。4歳はその発達途上、6歳は次の母子関係の発達への移行、ある意味では母子関係からの自立の途上と考えてもいいと思われる。従って、5歳の時期に健診を実施すれば、母と子の双方の保健指導や心の相談の効果が最も期待され、また母子関係の発達を援助するためのよい時期であると考えられる。

c) 父親と母親双方の心身の状態の関連

角度を変えて、5歳児では、父親の心身状態と父親の家事・育児への参加、子どもとの遊びやなつき、そして、母親の心身状態とは関連を有している。いわば、心身快調な父親は家事や育児に参加し、子どもとよく遊び、なつき、母親の心身の状態もよいといえよう。そして、5歳児では母親の心身状態がよいと同傾向を示し、従って、4歳6歳にもいえることであるが、父母双方の心身状態が関連をもっていること、そしてそれが子どもの広範囲の心身の状態と関連しているといえる。そこで、健診は母と子のみを対象とするのではなく、父・母・子三者を対象にした、家庭保健といった健診のあり方が重要であると考えられる。

本調査研究は子どもの心理社会的、発達の側面に関するものであり、ここからでてくる健診目的は当然この領域のものである。そして、本研究の結果から子ども・母親・父親という三者を視点に入れた家庭保健とでもいうべき健診のあり方が今後重要であると考えられる。大きな病気、心身障害等はこれまでの健診で見いだされ、事後指導につながっている筈であるが、親子・家庭という子どもの環境を考え、幼児期間に必

要な援助をする機会として小学校入学のおよそ1年前の時点で健診を実施することは有用であろう。幼児期後半は殆どの子どもが保育所・幼稚園に通っていること、しかし各園での健診内容は質的な面でのバラつきがあることを考慮し、一定のポリシーと精度をもった健診を設定すべきである。また、幼児の集団生活の場で、成人病予防を考慮にいたしたスクリーニングを行い、食生活や運動の指導、要すれば治療につなげることも現在のわが国社会の実態として必要と考える。これら健診の多目的な活用に関しては、さらに調査研究を行なう必要があるだろう。

表1 調査地域と対象数

地域	人数	調査に協力いただいた研究協力者
東京	337	渡辺言夫（杏林大）、宮下晴夫（杉並医師会）
埼玉	472	阿部恒保、手島力男（浦和市医師会）
神奈川	276	山崎京子（横浜市）、佐々木正美（小児療育相談センター）
三重	493	神谷斉（三重病院）、沢田啓司（久居市医師会）
愛知	323	松岡いづみ（足助保健所）
仙台	351	千葉良（仙台赤十字病院）
秋田	236	伊藤玲子（大曲保健所）
和歌山	201	橋爪章（和歌山県）
沖縄	286	青山俊雄、仲田八重子、唐真祐子（宮古、八重山保健所）
不明	28	
合計	3,003	

表3 「表2」の内容項目の問題種類別度数分布表

表3-a いわゆる微症状関係
(9項目:表2の項目番号 1, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 20)

微症状関係 項目数	度数 (訴えあり の人数)	パーセント (%)	累積 パーセント (%)
0	1680	55.9	55.9
1	845	28.1	84.1
2	331	11.0	95.1
3	110	3.7	98.8
4	23	0.8	99.5
5	10	0.3	99.9
6	2	0.1	99.9
7	2	0.1	100.0
8以上	0	0.0	100.0
計	3003	100.0	100.0

表3-b 習癖関係
(6項目:表2の項目番号 2, 3, 4, 5, 21, 23)

習癖関係 項目数	度数 (訴えあり の人数)	パーセント (%)	累積 パーセント (%)
0	1926	64.1	64.1
1	873	29.1	93.2
2	190	6.3	99.5
3	13	0.4	100.0
4	1	0.0	100.0
5以上	0	0.0	100.0
計	3003	100.0	100.0

表3-c 食事関係
(3項目:表2の項目番号 6, 7, 8)

食事関係 項目数	度数 (訴えあり の人数)	パーセント (%)	累積 パーセント (%)
0	1932	64.3	64.3
1	906	30.2	94.5
2	163	5.4	99.9
3	2	0.1	100.0
計	3003	100.0	100.0

表3-d 社会不適合的行動関係
(3項目:表2の項目番号 22, 24, 25)

社会不適合 的行動関係 項目数	度数 (訴えあり の人数)	パーセント (%)	累積 パーセント (%)
0	2773	92.3	92.3
1	200	6.7	99.0
2	29	1.0	100.0
3	1	0.0	100.0
計	3003	100.0	100.0

表3-e 怖れ関係
(2項目:表2の項目番号 17, 19)

怖れ関係 項目数	度数 (訴えあり の人数)	パーセント (%)	累積 パーセント (%)
0	2886	96.1	96.1
1	113	3.8	99.9
2	4	0.1	100.0
計	3003	100.0	100.0

表3-f 睡眠障害関係
(2項目:表2の項目番号 9, 18)

睡眠障害 関係 項目数	度数 (訴えあり の人数)	パーセント (%)	累積 パーセント (%)
0	2738	91.2	91.2
1	253	8.4	99.6
2	12	0.4	100.0
計	3003	100.0	100.0

表4 父親・母親の心身状態

父親・母親の 心身状態	4歳		5歳		6歳	
	父親	母親	父親	母親	父親	母親
心身快調	65.8	67.0	66.0	65.4	67.5	65.3
精神的不調	8.3	8.1	8.7	9.8	8.7	10.1
身体的不調	10.7	8.1	12.0	7.9	10.7	8.0
心身不調	1.0	1.6	2.5	2.3	1.4	3.2
何ともいえない	13.6	15.3	10.8	14.6	11.1	13.5

表5 年齢別にみた項目間のクロス集計成績（カイ2乗検定にて有意の組合せを○印で示す）

項目	徴症状		習癖		食事の問題		社会不適合的行動		怖れ		睡眠障害		父親の心身状態		母親の心身状態									
	4歳	5歳	4歳	5歳	4歳	5歳	4歳	5歳	4歳	5歳	4歳	5歳	4歳	5歳	4歳	5歳								
1-a 徴症状																								
-b 習癖																								
-c 食事の問題																								
-d 社会不適合的行動																								
-e 怖れ																								
-f 睡眠障害																								
2 活発さ																								
3 好奇心																								
4 意欲																								
5 自分で																								
6 生き生き表情																								
7 仲よし																								
8 おはし																								
9 食卓																								
10 ウンチ																								
11 着脱衣																								
12 前後左右の理解																								
13 口型模写																								
14 数の概念																								
15 5秒片足立ち																								
16 想像・空想遊び																								
17 乱暴しないで友達遊び																								
18 真い悪いの理解																								
19 集団遊び																								
20 欲求を先に延ばす																								
21 母親と離れても安定																								
22 機嫌の良さ																								
23 母親との良い関係																								
24 父親の家事参加																								
25 父親の育児参加																								
26 父親との遊び																								
27 父親へのなつき																								
28 父親の心身状態																								
29 子どもの要求への対応																								
30 母親の居場所																								
31 母親のゆったり気分																								
32 母親の心身状態																								
有意項目数	3	15	4	8	9	1	5	17	9	13	20	16	8	16	9	3	10	6	7	19	10	9	30	15

表2 微症状等の出現率

「お子さんに以下のようなことがありますか？」 の中の項目	4歳		5歳		6歳		計	
	%	(N)	%	(N)	%	(N)	%	(N)
1 ぜんぜんいや	11.1	(55)	10.9	(183)	9.6	(77)	10.6	(316)
2 おねしょ	21.4	(108)	14.2	(240)	14.1	(113)	15.4	(461)
3 指しゃぶり	17.7	(89)	12.9	(218)	10.7	(86)	13.1	(393)
4 爪かみ	11.1	(56)	11.9	(201)	11.6	(93)	11.7	(350)
5 目をバチバチさせる(チック)	0.8	(4)	1.1	(19)	1.4	(11)	1.1	(34)
6 小食	19.4	(98)	17.7	(298)	18.2	(146)	18.1	(542)
7 過食	1.8	(9)	2.6	(43)	3.2	(26)	2.6	(78)
8 偏食	20.6	(104)	21.5	(352)	18.8	(151)	20.6	(617)
9 わつきが悪い等睡眠の問題	4.2	(21)	5.9	(100)	8.0	(64)	6.2	(185)
10 顔色が悪い	1.6	(8)	2.4	(41)	1.9	(15)	2.1	(64)
11 熱を出しやすい	9.1	(46)	9.0	(152)	8.5	(68)	8.9	(266)
12 腹痛をおこしやすい	4.8	(24)	6.4	(108)	5.4	(43)	5.9	(175)
13 下痢しやすい	2.0	(10)	2.7	(46)	2.1	(17)	2.4	(73)
14 便秘しやすい	7.9	(40)	6.7	(113)	6.7	(54)	6.9	(207)
15 吐きやすい	6.0	(30)	4.9	(83)	3.7	(30)	4.8	(143)
16 湿疹がでやすい	17.7	(89)	15.7	(265)	12.5	(100)	15.2	(454)
17 極端な人見知りをする	1.8	(9)	1.4	(24)	1.6	(13)	1.5	(46)
18 夜中に起きて泣き叫んだりする(夜驚)	2.4	(12)	3.5	(59)	2.6	(21)	3.1	(92)
19 ひどくこわがる	3.2	(16)	2.6	(43)	2.0	(16)	2.5	(75)
20 つかれやすい	3.8	(19)	3.4	(58)	5.0	(40)	3.9	(117)
21 ともることがある(叱音)	1.8	(9)	1.5	(25)	1.9	(15)	1.6	(49)
22 幼稚園、保育所にいきたくない	3.2	(16)	2.0	(33)	1.9	(15)	2.1	(64)
23 髪の毛をぬいてしまう	0.0	(0)	0.2	(3)	0.2	(2)	0.2	(5)
24 家の人とは話すが、よその人とは殆ど話さない	3.6	(18)	3.8	(64)	2.6	(21)	3.4	(103)
25 お母さんから離れられない	3.8	(19)	3.1	(53)	2.7	(22)	3.1	(94)
回答数の合計	180.6	(910)	168.2	(2,834)	157.0	(1,259)	167.3	(5,003)
回答者実数	100.0	(504)	100.0	(1,485)	100.0	(802)	100.0	(2,991)

付表(1) 質問項目別、年齢群別 分布表(表2に示した以外の項目) その1

調査票の質問番号及び質問内容と その回答	N				割合			
	4歳	5歳	6歳	計	4歳	5歳	6歳	計
2 お子さんは活発なほうですか。								
1 大変活発である	116	379	217	712	23.0%	22.6%	27.3%	23.9%
2 どちらかという活発である	163	544	277	984	32.3%	32.5%	34.8%	33.1%
3 ふつう	199	644	252	1,095	39.4%	38.4%	31.7%	36.8%
4 どちらかという活発でない	23	95	39	157	4.6%	5.7%	4.9%	5.3%
5 活発でない	4	14	11	29	0.8%	0.8%	1.4%	1.0%
計	505	1,676	796	2,977	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
3 お子さんは好奇心が強いほうですか。								
1 大変強い	116	316	196	628	23.0%	18.8%	24.5%	21.1%
2 どちらかという強い	165	622	301	1,088	32.7%	37.0%	37.7%	36.5%
3 ふつう	211	694	288	1,193	41.9%	41.3%	36.0%	40.0%
4 どちらかという少ない	12	42	13	67	2.4%	2.5%	1.6%	2.2%
5 少ない	0	5	1	6	0.0%	0.3%	0.1%	0.2%
計	504	1,679	799	2,982	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
4 お子さんは意欲的ですか。								
1 大変意欲的	76	237	126	439	15.1%	14.2%	15.9%	14.8%
2 どちらかという意欲的	181	576	330	1,087	35.9%	34.4%	41.6%	36.6%
3 ふつう	232	782	314	1,328	46.0%	46.7%	39.5%	44.7%
4 どちらかという意欲的でない	14	73	21	108	2.8%	4.4%	2.6%	3.6%
5 意欲的ではない	1	5	3	9	0.2%	0.3%	0.4%	0.3%
計	504	1,673	794	2,971	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
5 お子さんは自分のことは自分でやりますか。								
1 大変やりがる	102	349	169	620	20.3%	20.8%	21.2%	20.8%
2 どちらかという自分でやりがる	181	626	299	1,106	36.1%	37.3%	37.5%	37.2%
3 ふつう	140	477	241	858	27.9%	28.4%	30.2%	28.8%
4 どちらかという頼りがち	75	217	86	378	14.9%	12.9%	10.8%	12.7%
5 頼りがち	4	9	2	15	0.8%	0.5%	0.3%	0.5%
計	502	1,678	797	2,977	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
6 お子さんは子どもらしい生き生きとした表情をしており、十分楽しく遊んでいると思いますか。								
1 はい	444	1,524	731	2,699	88.1%	91.0%	91.6%	90.7%
2 いいえ	2	12	7	21	0.4%	0.7%	0.9%	0.7%
3 何ともいえない	58	139	60	257	11.5%	8.3%	7.5%	8.6%
計	504	1,675	798	2,977	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
7 お子さんは仲のよい友達がいる、よく一緒に遊んでいますか。								
1 はい	415	1,470	721	2,606	83.0%	87.8%	90.5%	87.7%
2 いいえ	47	86	36	169	9.4%	5.1%	4.5%	5.7%
3 わからない	38	118	40	196	7.6%	7.0%	5.0%	6.6%
計	500	1,674	797	2,971	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

付表(2) 質問項目別、年齢群別 分布表(表2に示した以外の項目) その2

調査票の質問番号及び質問内容 その回答	N				割合			
	4歳	5歳	6歳	計	4歳	5歳	6歳	計
8 おはしをじょうずに使えますか。								
1 よく使える	193	777	393	1,363	38.2%	46.3%	49.2%	45.7%
2 だいたい使える	246	781	347	1,374	48.7%	46.5%	43.5%	46.1%
3 うまく使えない	58	119	57	234	11.5%	7.1%	7.1%	7.8%
4 使えない	8	2	1	11	1.6%	0.1%	0.1%	0.4%
計	505	1,679	798	2,982	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
9 食卓から離れないでおしまいまで食べることができますか。								
1 はい	272	1,004	512	1,788	54.2%	60.0%	64.2%	60.1%
2 いいえ	134	370	161	665	26.7%	22.1%	20.2%	22.4%
3 何ともいえない	96	300	124	520	19.1%	17.9%	15.6%	17.5%
計	502	1,674	797	2,973	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
10 うんちのしまつをおおよそひとりで行えるようになりましたか。								
1 よくできる	203	1,084	587	1,874	40.2%	64.5%	73.5%	62.8%
2 大体できる	221	517	198	936	43.8%	30.8%	24.8%	31.4%
3 手伝わないとできない	81	79	14	174	16.0%	4.7%	1.8%	5.8%
計	505	1,680	799	2,984	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
11 着ること、脱ぐことをおおよそひとりで行えるようになりましたか。								
1 よくできる	221	1,188	627	2,036	43.8%	70.8%	78.5%	68.3%
2 大体できる	264	482	169	915	52.3%	28.7%	21.2%	30.7%
3 手伝わないとできない	20	9	3	32	4.0%	0.5%	0.4%	1.1%
計	505	1,679	799	2,983	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
12 自分を中心にして「前後」「左右」がわかっているようですか。								
1 わかっている	208	883	475	1,566	41.3%	52.6%	59.7%	52.6%
2 おおよそわかっている	242	692	285	1,219	48.0%	41.2%	35.8%	40.9%
3 まだよくわかっていないようだ	54	105	35	194	10.7%	6.3%	4.4%	6.5%
計	504	1,680	795	2,979	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
13 □(四角)の形をまねて、ほぼ同じように書けますか。								
1 かける	299	1,247	637	2,183	59.7%	75.2%	80.4%	73.9%
2 それらしく書ける	185	391	144	720	36.9%	23.6%	18.2%	24.4%
3 書けないようだ	17	21	11	49	3.4%	1.3%	1.4%	1.7%
計	501	1,659	792	2,952	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
14 積木やおはじき等を5つ置いて「3つ取ってごらん」というと、お子さんは正しく3つ取れますか。								
1 はい	477	1,651	794	2,922	95.2%	98.9%	99.5%	98.5%
2 いいえ	7	4	2	13	1.4%	0.2%	0.3%	0.4%
3 まだできないようだ	17	14	2	33	3.4%	0.8%	0.3%	1.1%
計	501	1,669	798	2,968	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

付表(3) 質問項目別、年齢群別 分布表(表2に示した以外の項目) その3

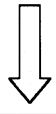
調査票の質問番号及び質問内容と その回答	N				割合			
	4歳	5歳	6歳	計	4歳	5歳	6歳	計
15 片足で5秒間以上立っていられますか。								
1 できる	371	1,453	736	2,560	75.9%	88.8%	92.9%	87.8%
2 ほんの少しならできる	106	168	54	328	21.7%	10.3%	6.8%	11.2%
3 まだできないようだ	12	15	2	29	2.5%	0.9%	0.3%	1.0%
計	489	1,636	792	2,917	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
16 自分でお話を作ったり等して想像遊び、空想遊びをしているようですか。								
1 はい	414	1,358	661	2,433	82.5%	82.0%	81.2%	81.8%
2 いいえ	23	92	58	173	4.6%	5.6%	7.1%	5.8%
3 わからない	65	207	95	367	12.9%	12.5%	11.7%	12.3%
計	502	1,657	814	2,973	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
17 乱暴したり、いやがらせなどをあまりせずにうまく友達と遊べるようになりましたか。								
1 はい	422	1,459	709	2,590	83.9%	87.4%	89.0%	87.2%
2 いいえ	22	64	27	113	4.4%	3.8%	3.4%	3.8%
3 わからない	59	147	61	267	11.7%	8.8%	7.7%	9.0%
計	503	1,670	797	2,970	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
18 親や先生のいう「よいこと」「わるいこと」がわかっているようですか。								
1 よくわかっている	241	944	492	1,677	47.8%	56.4%	61.7%	56.4%
2 おおよそわかっている	250	701	300	1,251	49.6%	41.9%	37.6%	42.1%
3 まだわからないようだ	7	14	1	22	1.4%	0.8%	0.1%	0.7%
4 何ともいえない	6	14	5	25	1.2%	0.8%	0.6%	0.8%
計	504	1,673	798	2,975	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
19 保育園、幼稚園あるいは近所の子どもたちのなかまにまじって、遊んでいるようですか。(集団遊び)								
1 よく遊んでいる	375	1,282	632	2,289	74.7%	76.6%	79.2%	77.0%
2 時々遊んでいる	109	354	146	609	21.7%	21.2%	18.3%	20.5%
3 遊ばない	7	18	8	33	1.4%	1.1%	1.0%	1.1%
4 わからない	11	19	12	42	2.2%	1.1%	1.5%	1.4%
計	502	1,673	798	2,973	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
20 よく事情を話せば、ほしいもの、したいことでも、先にのぼしたり、我慢できるようになりましたか。								
1 できる	209	866	462	1,537	41.5%	51.7%	57.8%	51.6%
2 おおよそできる	245	673	280	1,198	48.6%	40.2%	35.0%	40.2%
3 まだがまんできない	39	116	50	205	7.7%	6.9%	6.3%	6.9%
4 何ともいえない	11	21	7	39	2.2%	1.3%	0.9%	1.3%
計	504	1,676	799	2,979	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

付表(4) 質問項目別、年齢群別 分布表(表2に示した以外の項目) その4

調査票の質問番号及び質問内容と その回答	N				割合			
	4歳	5歳	6歳	計	4歳	5歳	6歳	計
2 1 お母さんと半日以上離れていても、十分気持ちが安定して過ごし、活動することができますようですか。								
1 安定している	347	1,236	595	2,178	68.7%	74.1%	74.7%	73.3%
2 おおよそ安定している	138	391	190	719	27.3%	23.4%	23.9%	24.2%
3 不安定で、よく活動できないようだ	6	12	3	21	1.2%	0.7%	0.4%	0.7%
4 わからない	4	11	5	20	0.8%	0.7%	0.6%	0.7%
5 何ともいえない	10	19	3	32	2.0%	1.1%	0.4%	1.1%
計	505	1,669	796	2,970	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
2 2 機嫌がだいたいよく、むやみにかんしゃくを起こしたり、ぐずったり、泣き叫んだりといったことが 少なくなってきましたか。								
1 はい	402	1,416	693	2,511	79.9%	84.9%	87.0%	84.6%
2 いいえ	25	69	45	139	5.0%	4.1%	5.6%	4.7%
3 何ともいえない	76	182	59	317	15.1%	10.9%	7.4%	10.7%
計	503	1,667	797	2,967	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
2 3 お母さんの感想として、お子さんとの関係が、これまでのなかでもいい時期だなと思いますか。								
1 これまでにないいい関係である	144	462	247	853	28.7%	28.0%	31.4%	29.1%
2 前と変わらない	302	1,000	461	1,763	60.2%	60.7%	58.7%	60.0%
3 しっくりいかない	4	25	8	37	0.8%	1.5%	1.0%	1.3%
4 何ともいえない	52	161	70	283	10.4%	9.8%	8.9%	9.6%
計	502	1,648	786	2,936	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
2 4 お父さんは家事に参加してくれていますか。								
1 よくやっている	89	299	140	528	17.9%	18.4%	18.1%	18.2%
2 時々やっている	211	694	325	1,230	42.5%	42.7%	42.0%	42.5%
3 殆どしない	180	595	286	1,061	36.3%	36.6%	37.0%	36.6%
4 何ともいえない	16	39	22	77	3.2%	2.4%	2.8%	2.7%
計	496	1,627	773	2,896	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
2 5 お父さんは育児に参加してくれていますか。								
1 よくやっている	158	534	249	941	31.9%	32.8%	32.1%	32.5%
2 時々やっている	255	824	397	1,476	51.4%	50.6%	51.2%	50.9%
3 殆どしない	62	228	101	391	12.5%	14.0%	13.0%	13.5%
4 何ともいえない	21	42	28	91	4.2%	2.6%	3.6%	3.1%
計	496	1,628	775	2,899	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
2 6 お父さんとお子さんはよく遊んでいますか。								
1 よく遊んでいる	202	663	324	1,189	40.8%	40.6%	41.8%	41.0%
2 時々遊ぶことがある	252	831	397	1,480	50.9%	50.9%	51.2%	51.0%
3 殆ど遊ばない	34	123	45	202	6.9%	7.5%	5.8%	7.0%
4 何ともいえない	7	15	10	32	1.4%	0.9%	1.3%	1.1%
計	495	1,632	776	2,903	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

付表(5) 質問項目別、年齢群別 分布表(表2に示した以外の項目) その5

調査票の質問番号及び質問内容と その回答	N				割合			
	4歳	5歳	6歳	計	4歳	5歳	6歳	計
27 お子さんはお父さんになつているようですか。								
1 よくなつている	320	1,079	528	1,927	64.5%	66.1%	67.9%	66.3%
2 ふつうだと思う	169	512	231	912	34.1%	31.4%	29.7%	31.4%
3 なつかない	1	21	8	30	0.2%	1.3%	1.0%	1.0%
4 何ともいえない	6	21	11	38	1.2%	1.3%	1.4%	1.3%
計	496	1,633	778	2,907	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
28 お父さんのからだや気持ちの状態は良いようですか。								
1 心身とも快調	325	1,065	519	1,909	65.8%	66.0%	67.5%	66.4%
2 からだの調子は良いが、精神的には不調	41	140	67	248	8.3%	8.7%	8.7%	8.6%
3 気分の状態は良いが、からだに不調	53	193	82	328	10.7%	12.0%	10.7%	11.4%
4 心身ともに調子が悪い	8	41	11	60	1.6%	2.5%	1.4%	2.1%
5 何ともいえない	67	175	90	332	13.6%	10.8%	11.7%	11.5%
計	494	1,614	769	2,877	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
29 お母さんはお子さんが何をしてほしいのかがよくわかるので、要求がある前にやってあげてしまうことがありますか。								
1 いつもそうである	6	14	7	27	1.2%	0.8%	0.9%	0.9%
2 時々やってあげる	270	850	395	1,515	53.9%	51.5%	50.4%	51.6%
3 先に手を出すことはない	192	687	329	1,208	38.3%	41.6%	42.0%	41.2%
4 あまり気がつかない	33	99	52	184	6.6%	6.0%	6.6%	6.3%
計	501	1,650	783	2,934	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
30 お母さんは家で居場所のない感じや居心地が悪いという感じをもっていますか。								
1 はい	16	38	29	83	3.2%	2.3%	3.7%	2.8%
2 いいえ	447	1,470	689	2,606	89.4%	89.5%	87.5%	88.9%
3 何ともいえない	37	135	69	241	7.4%	8.2%	8.8%	8.2%
計	500	1,643	787	2,930	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
31 お母さんはゆっくりとした気分でお子さんと過ごせる時間はありますか。								
1 はい	313	1,062	503	1,878	62.5%	64.4%	64.0%	63.9%
2 いいえ	51	171	76	298	10.2%	10.4%	9.7%	10.1%
3 何ともいえない	137	417	207	761	27.3%	25.3%	26.3%	25.9%
計	501	1,650	786	2,937	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
32 お母さんのからだや気持ちの状態はよろしいですか。								
1 心身とも快調	333	1,081	512	1,926	67.0%	65.4%	65.3%	65.6%
2 からだの調子は良いが、精神的には不調	40	162	79	281	8.0%	9.8%	10.1%	9.6%
3 気分の状態は良いが、からだに不調	40	131	62	233	8.0%	7.9%	7.9%	7.9%
4 心身ともに調子が悪い	8	38	25	71	1.6%	2.3%	3.2%	2.4%
5 何ともいえない	76	241	106	423	15.3%	14.6%	13.5%	14.4%
計	497	1,653	784	2,934	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約

全国の4歳ないし6歳の幼児2970名を対象にアンケート調査を実施した結果から、5歳児の時期に健診を実施することが妥当であると考えられた。その理由は次のごとくであった。

調査項目によって示される、社会性、友達関係、生活習慣、および精神発達に関する項目に4歳と5・6歳の間に有意差が認められた。これらの領域は、幼児期に達成されることが望ましく、この点から5歳ないし6歳児健診が妥当であるとする。

5歳児において、微症状や非社会的行動などの問題と活動性、自発性、社会性・生活習慣や精神発達、母子・父子関係、父母の心身状況と、最も広範囲な関連を有し、この時期の健診の効果が期待できる。

5歳児において、父親・母親の心身状態とにのべた多くの調査項目が最も関連を有している。この時期は父親の影響を受けやすいだけでなく、母親と子どもの心身の状態が一番同調している。従って、5歳児では乳幼児期のある関係の発達の頂点なしていると考えられ、この時期に健診を実施すれば母と子の双方の保健指導や心の相談の効果が期待され、また、母子関係の発達を援助するためのよい時期であるとする。

父親・母親の心身状態が互いに関連を有し、さらにそれが特に5歳児の広範な心身状態と関連を有している。従って、父・母・子の三者を視点に入れた家庭保健的立場の健診が5歳児の時期に行なわれることが望まれる。

本研究は心理社会的、発達の側面に関するものであるが、5歳児前後はいろいろの立場で健診の必要性が考えられる。こうした多目的な健診を指向し、実施につなげていく発想が必要である。